

2022年の寅年にタイガーボードの100周年を記念して  
3月1日を「タイガーボードの日」として制定  
発表日：令和4年2月24日

吉野石膏株式会社



このたび、吉野石膏株式会社（本社東京都千代田区代表取締役社長 須藤永作）は、「タイガーボード」製造・販売100周年を迎えました。これを記念し、日本記念日協会を通じて3月1日を「タイガーボードの日」として制定いたしました。

吉野石膏 HP : <https://yoshino-gypsum.com/>

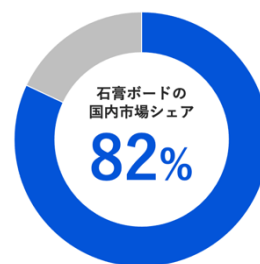
■皆様の防災・防火に貢献できればという想いを込めて「タイガーボードの日」を制定  
“燃えない建材”として住宅の防火に寄与してきた「タイガーボード」は、我が国で初めての石膏ボードとして1922年に製造販売を開始してから、2022年の寅年に100周年を迎えます。現存する最古の石膏ボードが1922年3月～6月に製造されたこともあり、春の火災予防運動が始まる3月1日を「タイガーボードの日」と制定いたしました。

“燃えない建材”「タイガーボード」をより多くの方に知っていただくと共に、皆様の防災意識の向上の一助になればという想いが込められています。なお、「タイガーボードの日」に関する詳しい情報は弊社ホームページをご覧ください。

#### ■100周年を迎えるロングセラー商品「タイガーボード」

「タイガーボード」は1922年に販売を開始し、2022年に100周年を迎える石膏ボードで吉野石膏の代表的なロングセラー商品。燃えない建材という特性を活かし、壁や天井の内装下地、耐火壁、遮音壁や耐力壁として高層建築や住宅などに広く使用されています。

「タイガーボード」の根強い人気もあり吉野石膏は、石膏ボードの国内シェア82%（※）を獲得しています。



※2020年石膏ボード工業会資料より算出。

#### — 本件に関するお問い合わせ —

「タイガーボード」PR事務局(株式会社マテリアル内)

TEL:03-5459-5490 / FAX:03-5459-5491 / MAIL:bp1-1g@materialpr.jp

担当：川上(070-7789-2800)/和田(070-8684-1993)

## ■石膏ボード(タイガーボード)の普及と発展に吉野石膏が寄与

- 1922年：日本初の石膏ボードとして「タイガーボード」の製造・販売を開始しました。  
日本の火災予防運動の由来となった、米国の火災予防週間が制定されました。
- 1923年：帝国ホテルライト館に採用され、壁や天井に使用されました。  
同年9月に起きた関東大震災で、隣接する勸業銀行などが火災を出した際にも帝国ホテルは地震・火災から免れました。
- 1947年：石膏ボードの普及のため、製造技術を広く公開しました。



※1922年に使われていたタイガーマーク

### <石膏ボードの発展>

1955年～：新しい工法を開発することで新製品を生み出しました。従来の土壁から工期を大幅短縮できることから「壁の革命」とまで言われた「ラス&プラスター工法」やRC壁から石膏ボードを使って軽量化する「乾式工法」などにより、石膏ボードが内装工事の主流へ。現在では、外壁の防耐火構造・耐力壁を、合板や筋交からだけでなく、外壁下地用耐力面材の「タイガーEXハイパー」からも作れるようになりました。

### <ニーズに応え進化を続ける「古くて新しい素材」>

超高層建築や高層住宅の建造にあわせ、建物そのものの軽量化や耐火性だけでなく、高い遮音性が求められるようになり、石膏ボードを使用した工法が日々開発されています。更に、健康に配慮したシックハウス対策でホルムアルデヒドを吸着分解する石膏ボードや防水性・防カビ性を持った外装下地石膏ボードなど付加価値商品の開発を続けております。

## ■「SDGs」取り組みとして、地球環境と調和する製品づくりを推進

タイガーボードは、地球環境と調和した製品づくりを行なっています。地球環境保全に配慮した原料を使用し、「石膏ボード」のリサイクルを積極的に実施することで、「大気汚染防止」「廃棄物削減」「森林保護」の3つに貢献しています。

### ・大気汚染防止

火力発電所などが亜硫酸ガスを無害にするときに生まれる「副産石膏」を回収し、石膏ボードの原料に使用することで大気汚染を防止しています。

### ・廃棄物削減

建築現場などから発生する「石膏ボード端材」を回収し、リサイクルを行っています。本来、廃棄する予定であった端材の量を減らし、廃棄物の削減へと繋げています。

### ・森林保護（「古紙」の積極活用）

古紙や段ボールを回収して石膏ボードの原料に使用しています。既存の資源を活用することによって、森林保護に貢献しています。

吉野石膏では、グループ全体の企業活動を通じて SDGs の目標達成と持続可能な社会の実現に向けた取り組みとして、地球環境と調和する製品づくり以外にも下記の活動を行なっています。

詳細は、吉野石膏ホームページをご覧ください。(<https://yoshino-gypsum.com/csr/sdgs>)

- ・地球環境と調和する製品づくり
- ・「吉野石膏の森」活動
- ・リサイクルせっこうの使用推進
- ・自然エネルギーの使用拡大
- ・温室効果ガス排出削減の取り組み
- ・FSC®森林認証(COC 認証)取得
- ・環境情報レポート(エコリーフ)の全 15 工場登録
- ・新興国・開発途上国の雇用と産業振興に貢献
- ・文化・芸術振興支援

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### ■吉野石膏株式会社は、創業 120 年を越える歴史を誇る業界のトップカンパニー



吉野石膏の創業は 1901 (明治 34) 年。山形県の吉野鉱山における石膏原石の採掘が始まりです。そして、わが国初の石膏ボードである「タイガーボード」が生まれたのが 1922 (大正 11) 年。当時から現在まで、常にトップカンパニーとして業界を牽引しています。また、1948 年には石膏ボード製造の技術を同業他社に公開指導し、業界の発展に努めてき

ました。1950 年代から合併事業や M&A を手がけ、各地に工場を建設し成長を遂げてきました。好不況が繰り返される経済情勢の変化への対応には、吉野石膏としてもまさに荒波を乗り越えるような地道な努力を積み重ね常に新製品・新工法の開発を続けています。その結果として、いつの時代も変わることなく、圧倒的な市場占有率を得る事ができ、現在では、石膏ボードの国内市場シェアは 80% を超えています。何よりも重要なのは、お客様のニーズに柔軟かつ迅速に対応することです。そのため、吉野石膏では全国レベルで、市場に近い場所に生産工場を保有しています。また、2001 年に商品開発の拠点となる総合性能試験センターを稼働、2007 年には、最新鋭の技術を投入した世界屈指の生産性を誇る「千葉第三工場」を稼働させています。